

過大規模校に対する教育委員会の考え方について

教育委員会
教育環境計画室

1. 過大規模校の定義

小・中学校共に 31 学級以上をいいます。

(特別支援学級は、設置基準が異なりますので、ここでいう学級数には含みません。)

2. 過大規模校の主な課題

過大規模校では、多くの出会いから様々な経験が出来る機会に恵まれる一方で、次のような課題が生じる場合があるとされています。

- 学校行事等において、係や役割分担のない子どもが出る可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなります。
- 同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、子ども達の間関係が希薄になりがちになります。
- 特別教室や体育館等を授業で利用しにくくなります。

3. 課題の解消に向けた考え方

上記 2 の課題を解消するため、教育委員会では、過大規模校に対し次のような取り組みを進める必要があると考えています。

●通学区域の変更

隣接校が受け入れ可能な学校規模である場合は、通学区域の変更により進めます。(地域活動の範囲の変更が困難な場合、一部の地域で期限を定め、指定された(または保護者の選択による)学校に通学する特例制度を適用します。)

●学校の分離新設

隣接する学校への通学区域の変更が困難であり、用地の確保が可能である場合は、学校の分離新設を検討します。

田代小学校の現状と今後の対応について

教育委員会
教育環境計画室
学校整備課

1. 現 状

- 過大規模校（31 学級以上）ですが、現時点で教室不足は発生していません。
- 今後、学級数の増加が見込まれ、最大で 3 教室不足する可能性がありますので、教室の転用が必要となります。

<児童数の将来推計>

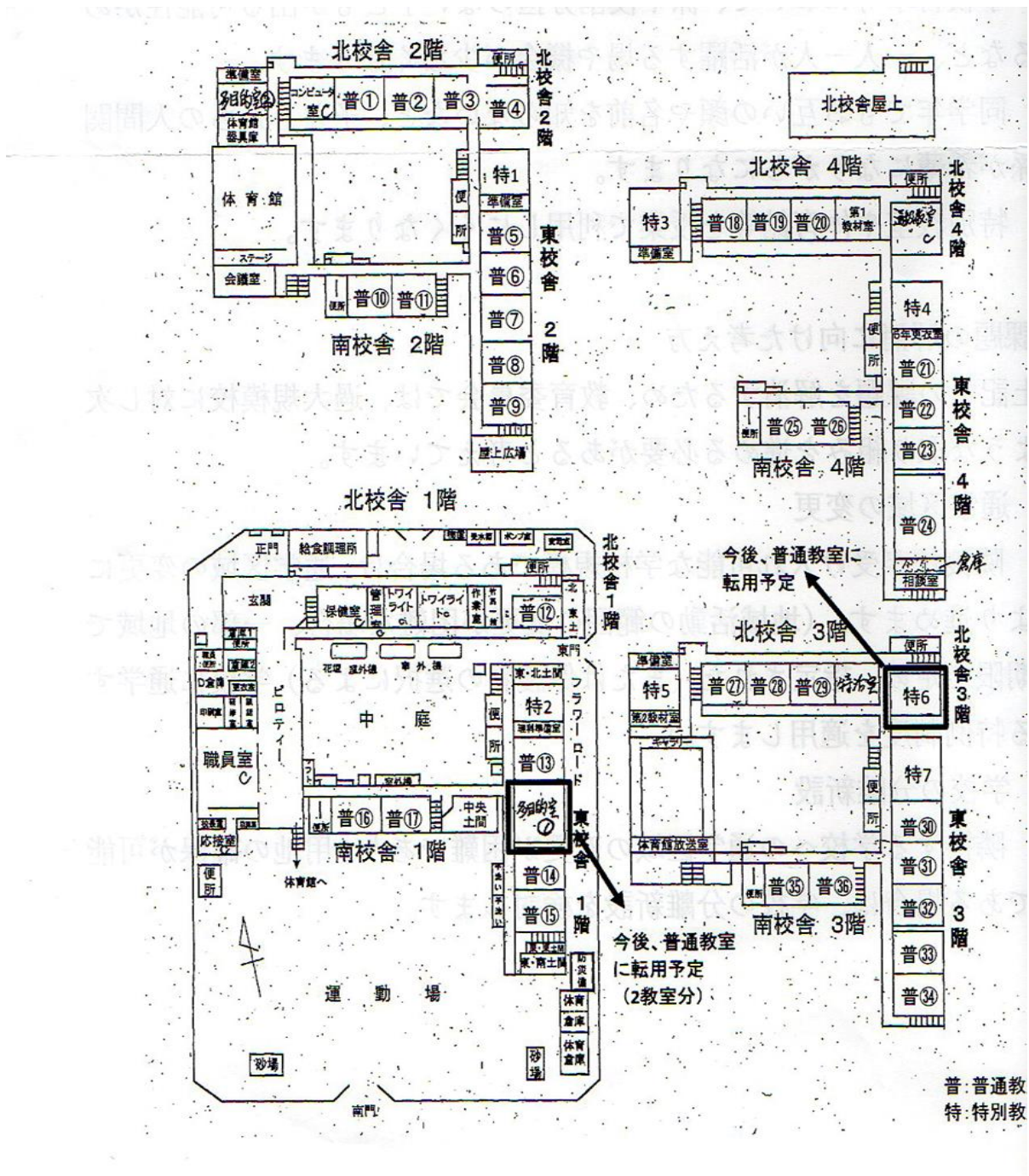
学校名	事項	H31 年度	R2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
田代小 (36 教室)	児童数	1,127 人	1,148 人	1,181 人	1,208 人	1,208 人	1,212 人	1,172 人
	学級数	36 学級	37 学級	38 学級	39 学級	39 学級	39 学級	38 学級
	不足教室数	－	△1	△2	△3	△3	△3	△2

※① 学級数は、特別支援学級(3 学級)を含めたものです。

※② 令和 2 年度以降は、幼児人口等に基づいた推計値です。

2. 今後の対応（案）※次ページの田代小学校配置図を参照

- 学級数の増加に伴い不足する 3 教室についての対応(案)は、次の通りです。
 - 教室の転用については、不足が生じる年度ごとに学校との協議の上、対応を検討します。
- ※今後、さらなる教室不足が生じた場合には、敷地内での仮設校舎を検討します。



●多目的室を普通教室に転用予定 (2 教室分)

●特別教室を普通教室に転用予定